

令和7年度 第3回豊田市文化芸術振興委員会 会議録

○日時

令和8年2月5日（木） 午前10時～午後11時30分

○場所

東75展望会議室（豊田市役所東庁舎7階）

○出席者

（委員）※敬称略

- ・高北幸矢（委員長）、高橋秀治、藤田雅也、石黒秀和、磯村美沙希、伊丹靖夫、石川紀子

（関係課）

- ・美術館 | 安川副主幹
 - ・博物館 | 井上副主幹
 - ・学び体験推進課 | 沢田担当長
- （事務局）
- ・魅力活躍部 | 塚田副部長
 - ・文化振興課 | 畔柳課長、千賀副課長、彦坂担当長、志村主査

○傍聴者

なし

報告 「第3次豊田市文化芸術振興計画（素案）」におけるパブリックコメントの実施結果について【資料1-1、1-2】

- 委員 Eモニターの構成について教えてほしい。
- 事務局 50代が66人、40代が57人、60代が32人、30代が23人と続く。会社員が69人、パート・アルバイトが54人、専業主婦（夫）が43人である。
- 委員 パブリックコメントは、丁寧にまとめていてよい。期待を込めた意見が多く、市民に受け入れられる計画ができた。
件数の記載がない欄は、1件でよいか。市民へ公表するか。
- 事務局 件数の記載がない欄は、1件でよい。空欄の箇所には1を入れておく。市民へはホームページ等で公表する。

協議 「第3次豊田市文化芸術振興計画（案）」について【資料2】【別冊1】

- 委員 PR素材とPR媒体について、市民に知らせることも大切だが、市外にPRすることも必要ではないか。外からの声で、市民が自信を持つ。豊田市では様々な事業を行っているが、市民は自信を持っていない。
- 委員 的を得た意見である。第3次豊田市文化芸術振興計画と言っても、市民

- にはピンとこない。非常に行政的な言葉であり、発信力に欠ける。PR の際はそういった視点を持っていることが必要。計画の内容が浸透するような、市民に届くような発信方法を検討してほしい。
- 事務局 魅力創造部にシティプロモーション戦略課を作り、外からの誘客と市民に豊田市の魅力に気付いてもらうための取組を進めている。定住促進の観点から、特に 20 代、30 代の市民に対してプロモーションを強化している。
- 委員 以前から豊田市民は、自信がない。外の人に褒めてもらうことで、文化芸術に対する自信が持てるのではないか。
- 委員 自信のあり、なしは、地域性によるところも大きい。九州は、自信のある地域が多いと感じる。
- 委員 豊田市で育った人と、仕事等で豊田市に来た人とでは違う。どういった顔の市民を見ているか。
- 委員 仕事等で、たまたま豊田市に来た人が多いのではないか。地元の人が多い地域とは違う。こういった外からの視点を持つことが大切。
- 事務局 市民が市に愛着を持たないと、外の人にも届かない。こどもたちにも愛着が育たない。
- 委員 豊田市美術館も外からの反応がよい。市民の方が反応が弱いと感じる。市役所で働いている人でも美術館を知らない人が多い。そのため市役所職員を対象にした講座を開催し、美術館を PR した。足元が見えていない。豊田市が市としてやっていることを、もっと PR しないといけない。地域に目を向ける機会を増やすため、地域に根差した視点を持って、地道に活動することが大切。
- 委員 豊田市美術館のコレクションは一級品であり、建築は国内でも一二を争う。しかし関係者でも、建物すら知らない人が多い。セールスポイントを絞ったピンポイントでの PR をすることが大切ではないか。委員になるまで、豊田市に能楽堂があることを知らなかった。
- 委員 施策 3 の修正について、第 1 次計画、第 2 次計画で育ってきたものを、どう活用していくかが見えてよい。修正が加えられてよかった。パブリックコメントで市民主体の取組と捉えられたため施策 3 を修正したと資料にあるが、究極的には市民が主体的に文化芸術活動することが目標ではないか。修正の理由を丁寧に読めば分かるが、市民主体の取組を後退させるような誤解を受けないような表現にした方がよい。
- 委員 計画について、数字の全角と半角が混同しているため、統一した方がよい。
- 事務局 修正する。
- 委員 計画はどこで配布し、誰が読めるのか。
- 事務局 市役所や交流館、公共文化施設等に配架する。市ホームページにも掲載する。概要版も作成する。
- 委員 最新の情報にアクセスできるように、計画に QR コードを掲載してはどうか。
- 事務局 検討する。
- 委員 市民の活動という観点から、市民を育てると言うが、具体的にどうする

- のか。文化振興財団をどういう風に使っていくのか。
- 事務局 予算を渡して自由に面白いことをやってもらうのが究極ではあるが、すぐにはできない。活動を継続させ、信頼関係が育って、主体的に活動するようになる。文化振興財団が、主体的に活動できるよう、自立するようにやっていきたい。
- 委員 結局最後は人。行政にも面白い人がいる。熱を持って仕事をしている人がいるか。組織の問題ではない。
- 委員 活動を行っているうちに、人は見つかるし、育ってくる。
- 委員 市民によるアートプロジェクトでは、人材を育てる活動を行ってきた。育った活動者と市民がつながるシステムがあるか。つながるための支援が必要ではないか。人材同士や人材と活動場所などをマッチングする機会があるとよい。
- 委員 文化サロンのような場が昔は文化協会にあった。場所だけあってもダメで、つなぐ人がいないといけない。若い人が集まれる場所があるとよい。一時は旧波満屋旅館がその役割を果たしていた。計画を具現化する市民の団体・集団がいるとよい。

その他 豊田地域クラブ活動ガイドラインの策定について【資料3】

- 委員 ガイドラインについて、保護者への説明や了承を得る機会はあるのか。
- 事務局 入部届に代わるものを電子化する予定であるが、その時に読んでもらい了承にチェックを入れるようなイメージを持っている。
- 委員 資料3ページの「過剰な要求」について、誰が過剰を判断するのか。
- 事務局 市が、指導者やコーディネーター等にヒアリングし、最終的な判断を行う。
- 委員 内容は保護者が必ず知っていないといけないこと。全児童・生徒に周知するため、電子だけでなく、紙でも配布した方がよい。各学校での周知は、デジタルだけでは不十分である。
- 事務局 周知は都度行っており、今年度も新入生向けの通知を作成し、入学説明会で紙資料を配布してもらっている。引き続き、様々な方法で周知を行っていく。
- 委員 ガイドラインについて、どこに問合せればよいか示されていない。教育委員会なのか、担当課なのか。問合せ先が見えにくい。
- 事務局 基本的には両方が関わっているため、どちらに問い合わせてもらっても構わない。ガイドラインへの問合せ先の明記については、対応を検討する。
- 委員 ガイドラインのこどもへの説明はいつ行うのか。当事者を大切にしてほしい。
- 事務局 入学説明会では、保護者とこども向けに作成した A3 の資料を配布して説明している。機会を捉えて説明していく。

以上